

令和7年度 第2回 宮原小学校学校運営協議会議事録

さいたま市立宮原小学校

- 1 日時・場所 [日時] 令和7年11月27日(木) 11:00 ~ 12:30
[場所] 第1会議室

- 2 出席
- | | | |
|------|--------|---------------------|
| 委員長 | 森下 佳代 | 宮原児童センター館長 |
| 副委員長 | 飯島 徹夫 | 宮原公民館長 |
| 委員 | 中山 和義 | 宮原地区自治会連合会副会長 |
| | 清水 猛 | 鍛冶自治会長 |
| | 井上 哲典 | 大宮交通安全協会宮原支部 |
| | 嶋村 茂 | 宮原地区社会福祉協議会会長 |
| | 清水 浩 | 近隣幼稚園・保育園代表 |
| | 清水 ヨシ子 | 宮原地区民生委員・児童委員協議会長 |
| | 白石 王恵 | チャレンジスクール教室コーディネーター |
| | 佐藤 幸枝 | 主任児童委員 |
| | 市川 牧香 | 宮原小学校PTA会長 |
| | 井上 雅史 | 宮原小学校校長 |
| | 長沼 幸男 | 宮原小学校学校地域連携コーディネーター |

欠席 委員 青木 洋 宮原中学校学校地域連携コーディネーター

3 次第

- (1) 開会
- (2) 校長あいさつ
- (3) 授業参観
- (4) 学校の取組について
- (5) 学校評価について
- (6) 熟議「人とのつながりを実感しながら豊かに生きていくためにできること」
- (7) 諸連絡
- (8) 閉会

4 議事概要

- (1) 学校の取組について【教頭】

○学校経営

・学校だよりや全校朝会、学校行事等、教育目標の具現化に向けてのメッセージを

意図的に発信している。

- ・校長室前にポストを設置し、子どものよい姿を集めている。

○教育課程指導等

- ・今年度、児童に過度な負担にならないよう教育課程を編成し、計画的に進めている。
- ・教育の質の確保に向け、日課の調整による10分の下校時刻の繰り上げを行い、教材研究や研修機会の確保に努めている。しかしながら、電話や窓口対応に費やす時間多い現状がある。
- ・働きやすさと働きがいを両立しながら、教育活動に当たることができるよう工夫していく。

○生徒指導・教育相談

- ・問題行動やいじめ、不登校等に関わる問題への組織的な対応を進めている。
- ・児童へのアンケートを実施するなど、早期発見、早期対応に努めている。
- ・教育相談について、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、状況によっては児童相談所等の関係機関と連携しながら、丁寧に対応を進めている。

○学校安全

- ・安全は教育活動の根幹に関わることであり、登下校等はP T Aや防犯ボランティア等、多くの協力を得ている。
- ・校内においては、危機管理マニュアルを改訂し、時代に合った危機対応を進めている。
- ・施設や設備について、樹木剪定等、教育委員会と連携しながら進めているところであるが、予算の関係上、対応に時間を要しているところもある。
- ・安全教育について、消防と連携した避難訓練や一斉下校など、計画的に進めている。
- ・通学班について、子ども会が編成しているが、年々役割を担うことが難しいという状況を聞いている。長期的に見て、通学班登校のシステム存続について検討することが必要になると考える。

○学校給食

- ・学校給食の衛生管理については、委託業者と連携しながら徹底している。
- ・食育推進の観点から、今年度、P T Aと連携して給食試食会を年1回から年2回に増やした。
- ・今年度は、地元シェフによる「シェフ給食」も実施予定である。

○学校保健

- ・学校医による健康診断、学校薬剤師による衛生検査を計画的に行うことができている。また、保健だより等を通じて家庭への啓発にも努めているところである。
- ・歯や口の健康、風邪の予防などの保健教育について、外部講師等を活用しながら実践につながる指導を行っている。

○特別支援教育

- ・今年度、特別支援学級が2学級増加するなど、特別支援教育へのニーズは増えている状況にある。校内委員会の計画的な運営、個別計画の作成、専門機関との連携等、一人ひとりに応じた支援に努めている。

○研修

- ・研修に努めることは、教職に携わる者の根幹になるところであり、力を入れて取り組んでいる。理論と実践を往還し、今年度のまとめとして個人研究レポートを作成するなど、教員一人ひとりが目標を定めながら研修に励んでいる。

○保護者・地域との連携について

- ・学校教育を進めるにあたっては、様々な場面で保護者や地域の方々の協力をいただいている。
- ・今年度は、毎月30日を「宮原小協働活動の日」として、子どもたちとの環境美化活動に取り組んでいる。参加した方からも、協働活動について、たくさんの肯定的な意見をいただいている。次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。

○施設・設備について

- ・施設等に傷みが出てきている現状がある。
- ・指定文化財のセンダンの木については、倒れないようにワイヤーで固定している状況にある。道路に垂れ下がってしまった枝については、教育委員会と調整し、昨年度と今年度で剪定を行った。
- ・校庭の桜の木についても、安全を考慮し、伐採等の対応を計画的に進めていく必要がある。

【委員】

- ・センダンの木が、万が一倒れた時のことを考えると、本当に危ないように感じる。残すことも大事だと思うが、安全面を考えると伐採をせざるを得ないのではないか。伐採の費用については、教育委員会との調整が難しいようであれば、教育振興会等の地元の有志を募ることもよいのではないか。
- ・通学班については、編成等が困難であることは理解している。通学班が無くても問題が無いようであれば、どこかで切り替えていくのもよいのではないか。

(2) 熟議 「人とのつながりを実感しながら豊かに生きていくためにできること」

【委員長】

- ・子どもたちが、人とのつながりを実感しながら豊かに生きていくためには、学校、家庭、地域はそれぞれ何ができるか、子どもたちが豊かに生きていくためのヒントになるものについて話し合いたい。

【グループA】

- ・大人が地域生活をしっかりと営み、その中に子どもたちを巻き込んでいくことで、子どもが人とのつながりを感じていくのではないか。大切なことは、大人が人とのつながりの器を作ってあげることである。

- ・地域の行事の中に子どもたちを参加させていく、また、地域の一員として子どもたちの力を活用していくことが、子どもが人とのつながりを感じていくようになると思う。

【グループB】

- ・地域の方と子どもたちが会う機会を増やすことが大切ではないか。たとえば、先日に学校で行った「ありがとう集会」は、地域の方を直接見ることができる機会であり、「公民館子どもまつり」や「コンサート」は実際に地域の人とやりとりができるよい機会である。
- ・子どもたちは小さい頃から、タブレット等を使っており、家族内や友達同士のコミュニケーションも少なくなっているように感じる。関わりを増やしていくことで、地域の方々の認知度も増していくのではないか。

【グループC】

- ・子どもは、年が近い方が関係を築きやすい。小学校は、1年生から6年生まで幅広い年齢がいることから、縦割り活動を増やすなど異年齢での関わり方を身に付けていくとよいと思う。
- ・挨拶など、中学生になってもつながる活動を増やしていくこともよいのではないか。はじめのうちは子どもから挨拶が返って来なくても、毎日続けることで、関係性が広がっていく。

【グループD】

- ・子どもたちの安全については、自治会等、地域でできることに取り組んでいるところである。子どもの成長については、家庭が基盤となる。「何かあればすぐに学校に」ではなく、各家庭でもう少し子どもと話し合うことが必要ではないか。

【委員長】

- ・熟議を通したキーワードとして、子どもたちが人とのつながりをもつということが上がった。たとえば、地域の祭りに参画するなど、大人が主体となって子どもを巻き込むこと、異なる年代の人たちと触れ合う機会をつくること、家庭や地域の中で子どもと向き合う時間を充実させることである。大切なのは、地域や家庭、学校のそれぞれが当事者意識をもつことであり、今日的话题を共有していきたい。

5 諸連絡・相談

(1) 今後の予定

- 第3回：令和8年 2月17日（火）

6 閉会

閉会后、授業参観・給食試食を実施